

# KYOWA KIRIN

## 株主メモ

|                   |  |
|-------------------|--|
| 事業年度              | 1月1日から12月31日まで   |
| 定時株主総会            | 毎年3月   |
| 基準日               | 定時株主総会・期末配当 毎年12月31日<br>中間配当 毎年6月30日   |
| 株主名簿管理人           | 東京都港区芝三丁目33番1号<br>中央三井信託銀行株式会社   |
| 郵便物送付先<br>(電話照会先) | 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号<br>中央三井信託銀行株式会社 証券代行部<br>電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)<br>取次事務は中央三井信託銀行株式会社の本店及び全国各支店並びに日本証券代行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。                |
| 公告方法              | 電子公告の方法により行います。ただし、やむをえない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。<br>公告掲載の当社ホームページアドレス <a href="http://ir.kyowa-kirin.co.jp/">http://ir.kyowa-kirin.co.jp/</a> |
| 証券コード             | 4151   |

## お知らせ

### 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。特別口座に関する振替請求、単元未満株式の買取請求・買増請求、配当金の受領方法の指定、住所等の変更の各お手続きについては、右記中央三井信託銀行株式会社のフリーダイヤル又はホームページで24時間受け付けております。

フリーダイヤル 0120-87-2031 (手続用紙ご請求専用:自動音声案内)  
ホームページ [http://www.chuomitsui.co.jp/person/p\\_06.html](http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html)

### 未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

## 協和発酵キリン株式会社

〒100-8185 東京都千代田区大手町一丁目6番1号 (大手町ビル)  
電話 03-3282-0007  
<http://www.kyowa-kirin.co.jp/>



## 株主のみなさまへ

# KYOWA KIRIN

## 第89期 中間報告書

平成23年1月1日～平成23年6月30日

## 協和発酵キリン株式会社



取締役社長  
松田 譲

株主のみなさまには、平素より当社経営へのご理解、ご支援をいただきまして、誠に有り難く心より御礼申し上げます。

この度の東日本大震災により被災された方々に、心よりお見舞いを申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧をお祈りいたします。

当社の第89期上半期（平成23年1月1日～平成23年6月30日）が終了しましたので、ここに中間報告書をお届けし、概況についてご報告いたします。

当上半期における我が国経済は、設備投資や個人消費などに改善の動きがみられ、企業収益も持ち直しの基調となりましたが、3月11日に発生した東日本大震災以降は、先行き不透明な状況で推移しました。海外の経済動向も欧州をはじめとして、楽観できない状況が続いております。

当社は、2010-12年度グループ中期経営計画において、「経営資源の効率的投入によりスピーディーに開発パイプラインを進展させる」というテーマを掲げ、重点項目として「事業ポートフォリオの選択と集中」、「生産拠点の再編による収益力強化」、「世界最高水準の抗体技術ビジネスの進展」の3つのポイントに注力しております。

まずは「事業ポートフォリオの選択と集中」に関し、中核となる医薬事業において、本年4月に、英国スペシャリティファーマであるProStrakan Group plc（以下「ProStrakan社」といいます。）の全株式を取得、同社を完全子会社とし、その経営資源を獲得しました。

当社は、自社グローバル開発体制の構築及び欧米における新薬販売体制の整備を重点施策と位置付け、これまでさまざまな検討を行ってまいりましたが、ProStrakan社は、米国及び欧州においてがん関連領域をはじめとする医療用医薬品の開発・販売体制を構築済みであり、今後、当社重点領域におけるグロー

バル新薬開発の加速、販売の拡大などにおける相互補完的なパートナーとして、当社のグローバル戦略を飛躍的に進展させることができると考えております。6月には当社社員も欧州現地への駐在を開始し、開発・販売戦略などでの連携をスタートさせております。

また、化学品事業については、3月末に当社が保有する協和発酵ケミカル(株)の全株式を譲渡しました。これにより、当社は経営資源を効率的に医療用医薬品事業に集中させることが可能となり、また、協和発酵ケミカル(株)は当社からの独立を実現することで、市場の多様なニーズに合致したより機動的な事業運営が可能となります。

「生産拠点の再編による収益力強化」については、バイオケミカル事業の子会社である第一ファインケミカル(株)において、医薬事業の生産基本戦略に沿って、堺・四日市工場の低分子医薬品原薬生産機能を移転するための製造設備建設に着手するなど、医薬・バイオケミカル事業一体となって生産効率を追求するとともに、高品質な製品の安定供給を実現してまいります。

加えて、抗体技術ビジネスの進展について、「ポテリジェント (POTELLIGENT®)」及び「コンプリジェント (COMPLEGENT®)」技術だけでなく、抗体医

薬の優れた生産技術も有しており、当社の抗体医薬における存在感はますます高まっております。

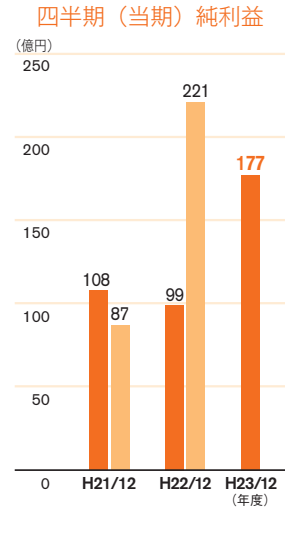
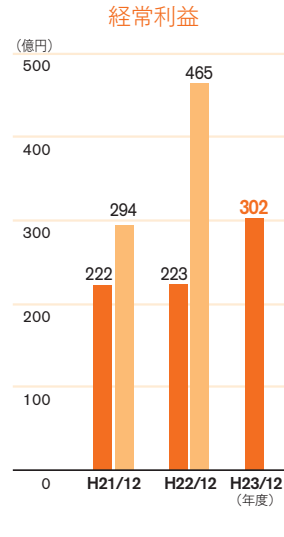
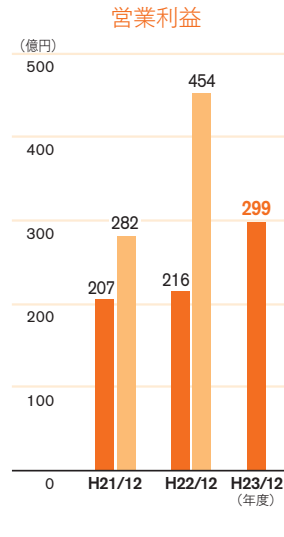
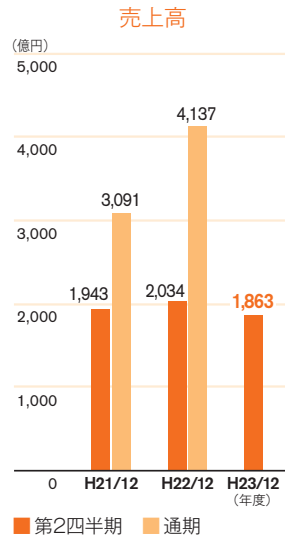
とりわけ、4月に国内医薬品製造販売承認申請を行った成人T細胞白血病リンパ腫の治療剤KW-0761は、世界で初めて「ポテリジェント (POTELLIGENT®)」技術を活用した抗体医薬品の第1号として、大変注目されております。

さて、セグメント別の状況ですが、医薬事業では、ジェネリック医薬品の使用促進、欧米製薬企業や専業大手の攻勢激化、国際的な新薬開発競争の激化など、引き続き厳しい競争環境となっております。

このような環境下において、当社グループは国内営業の更なる強化に努め、腎性貧血治療剤「ネスブ」及び「エスポー」、抗アレルギー剤「アレロック」及び「パタノール」等の主力製品のほか、潰瘍性大腸炎治療剤「アサコール」、がん疼痛治療剤「フェントス」などの販売拡大を図ってまいりました。また、1月に承認を取得した血小板造血刺激因子製剤「ロミプレート」を4月に発売し、早期市場浸透を図っております。

バイオケミカル事業では、為替変動の影響に加え、中国メーカー等の台頭による影響を受けておりますが、医療用途を中心とするアミノ酸、核酸関連物質等の高付加価値品の拡販を図りました。ヘルスケア

(注) この中間報告書に記載の金額及び株式数は、表示単位未満を切捨てております。



製品では、当社独自ブランド素材を中心とする通信販売リメイクシリーズの強化に取り組みました。

この結果、当上半期の連結ベースの売上高は、3月末をもって化学品事業が連結除外となった影響もあり、1,863億円（前年同期比8.4%減）となりましたが、営業利益は299億円（同38.0%増）、経常利益は302億円（同35.3%増）、純利益は177億円（同78.9%増）となり、厳しい環境下ながら増益を達成することができました。

なお、東日本大震災により一部の製造委託先の工場が被災しましたが、当社グループでは大きな被害

はありませんでした。

当社グループは、「バイオテクノロジーを基盤とし、医薬を核にした日本発の世界トップクラスの研究開発型ライフサイエンス企業を目指す。」というビジョンを掲げ、多様なニーズに対する新たな価値の提供を通じてグローバルな成長に挑戦し、企業価値の持続的な向上を図ってまいります。

今後とも、株主のみなさまのご期待にそえるよう全力を尽くす所存ですので、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年8月



当期の概況

国内の医療用医薬品は、赤血球を増やして腎性貧血を改善する薬剤である、主力製品の「ネスプ」が好調に推移したほか、花粉飛散量が多かった影響等により、抗アレルギー剤「アレロック」及び抗アレルギー点眼剤「バタノール」の売上高が前年同期を大きく上回りました。また、透析における合併症のひとつである二次性副甲状腺機能亢進症の治療剤「レグバラ」や、潰瘍性大腸炎治療剤「アサコール」、昨年販売を開始した、持続するがんの強い痛みの緩和に用いられる、1日1回タイプの貼付剤「フェントス」も順調に売上高を伸ばしました。

医薬品の輸出及び技術収入では、アジア向けを中



心とした輸出は順調に推移しましたが、技術収入は前年同期を下回る売上高となりました。

この結果、医薬事業の売上高は、1,125億円（前年同期比8.8%増）となり、営業利益は251億円（同39.7%増）となりました。

なお、当社は、4月21日に英国スペシャリティファーマであるProStrakan社の全株式を取得し、同社及びその子会社10社を当社の連結子会社としておりますが、本件買収に伴う会計処理にあたっては、6月30日をみなし取得日として連結しております。このため、当上半期の連結業績には、ProStrakan社の業績は含まれておりません。

開発パイプライン (平成23年8月2日現在)

| 領域        | 開発番号                     | 対象疾患                     | 開発地域   | 開発段階  |       |       |    |          |
|-----------|--------------------------|--------------------------|--------|-------|-------|-------|----|----------|
|           |                          |                          |        | フェーズ1 | フェーズ2 | フェーズ3 | 申請 | 承認       |
| がん        | KW-0761                  | 成人T細胞白血病リンパ腫             | 日本     | →     |       |       |    |          |
|           |                          | 末梢性T細胞リンパ腫及び皮膚T細胞リンパ腫    | 米国     | →     |       |       |    | フェーズ1/2  |
|           |                          | 成人T細胞白血病リンパ腫併用療法 (未治療対象) | 日本     | →     |       |       |    |          |
|           |                          | 末梢性T/NK細胞リンパ腫            | 日本     | →     |       |       |    |          |
|           | KRN321                   | がん化学療法による貧血              | 日本     | →     |       |       |    |          |
|           | Pegfilgrastim            | がん化学療法による発熱性好中球減少症       | アジア*1  | →     |       |       |    |          |
|           | KW-2246                  | がん性疼痛                    | 日本     | →     |       |       |    |          |
|           | KRN125                   | がん化学療法による発熱性好中球減少症       | 日本     | →     |       |       |    |          |
|           | ARQ197                   | 胃がん                      | 日本     | →     |       |       |    |          |
|           |                          | 胃がん                      | 韓国     | →     |       |       |    |          |
|           |                          | 肺がん                      | 日本     | →     |       |       |    |          |
|           | KW-2478                  | 多発性骨髄腫                   | 英米比    | →     |       |       |    | フェーズ1/2  |
|           | KW-2450                  | 悪性腫瘍                     | 米国     | →     |       |       |    | フェーズ1/2  |
|           | KRN330                   | 悪性腫瘍                     | 米国     | →     |       |       |    | フェーズ1/2a |
|           | BIW-8962                 | 悪性腫瘍                     | 米国     | →     |       |       |    | フェーズ1/2a |
|           | KRN951                   | 悪性腫瘍                     | 日本     | →     |       |       |    |          |
|           | KHK2866                  | 悪性腫瘍                     | 米国     | →     |       |       |    |          |
| LY2523355 | 悪性腫瘍                     | 日本                       | →      |       |       |       |    |          |
| 腎臓        | Cinacalcet Hydrochloride | 二次性副甲状腺機能亢進症             | シンガポール | →     |       |       |    |          |
|           |                          | 二次性副甲状腺機能亢進症             | 中国     | →     |       |       |    |          |
|           | Darbepoetin Alfa         | 腎性貧血 (透析施行中)             | アジア*2  | →     |       |       |    |          |
|           | KRN321                   | 小児腎性貧血                   | 日本     | →     |       |       |    |          |
|           |                          | 腎性貧血 (透析施行中)             | 中国     | →     |       |       |    |          |
| RTA402    | 糖尿病性腎症                   | 日本                       | →      |       |       |       |    |          |

| 領域         | 開発番号      | 対象疾患                                | 開発地域  | 開発段階  |       |       |    |    |
|------------|-----------|-------------------------------------|-------|-------|-------|-------|----|----|
|            |           |                                     |       | フェーズ1 | フェーズ2 | フェーズ3 | 申請 | 承認 |
| 免疫 / アレルギー | ASKP1240  | 臓器移植時の拒絶反応                          | 日本    | →     |       |       |    |    |
|            |           |                                     | 米国    | →     |       |       |    |    |
|            | Z-206     | クローン病                               | 日本    | →     |       |       |    |    |
| 中枢神経       | KHK4563   | 気管支喘息                               | 日本    | →     |       |       |    |    |
|            | KW-6500   | パーキンソン病                             | 日本    | →     |       |       |    |    |
|            | KW-6002   | パーキンソン病                             | 日本    | →     |       |       |    |    |
| その他        | KW-6485   | 小児てんかん                              | 日本    | →     |       |       |    |    |
|            | AMG531    | 慢性特発性血小板減少性紫斑病                      | アジア*3 | →     |       |       |    |    |
|            | KW-3357   | 汎発性血管内凝固症候群、先天性アンチトロンピン欠乏に基づく血栓形成傾向 | 日本    | →     |       |       |    |    |
|            |           |                                     | 欧州    | →     |       |       |    |    |
| KHK6188    | 神経障害性疼痛   | 日本                                  | →     |       |       |       |    |    |
| KRN23      | 低リン血症性くる病 | 米国                                  | →     |       |       |       |    |    |

\*1: 韓国、台湾、ベトナム \*2: タイ承認/シンガポール、フィリピン申請中 \*3: 韓国承認/シンガポール、香港、マレーシア、台湾申請中

用語解説

|              |                                     |              |   |              |   |
|--------------|-------------------------------------|--------------|---|--------------|---|
| <b>フェーズ1</b> | 同意を得た少数の健康人志願者を対象に、安全性及び体内動態の確認を行う。 | <b>フェーズ2</b> | 同意を得た少数の患者さんを対象に、有効で安全な投薬量や投与方法などを確認する。 | <b>フェーズ3</b> | 同意を得た多数の患者さんを対象に、既存薬などと比較して新薬の有効性と安全性を確認する。 |
|--------------|-------------------------------------|--------------|---|--------------|---|

開発状況について

がん領域

国内において、2月に抗がん剤の投与による白血球 (好中球) 減少に対する治療剤であるKRN125の第Ⅲ相臨床試験を開始しました。また、4月に血液がんの一種である成人T細胞白血病リンパ腫を対象とした抗CCR4抗体KW-0761の承認申請を行いました。

腎領域

国内において、1月に腎性貧血治療剤「ネスブ」の小児適応のための第Ⅲ相臨床試験を開始しました。

中枢神経系領域

国内において、6月に抗てんかん剤「デバケン」の片頭痛発作の発症抑制に関する効能・効果、用法・用量の追加承認を取得しました。

その他の領域

国内において、1月に血小板の数を増加又は維持させる、慢性特発性血小

板減少性紫斑病治療剤AMG531 (製品名「ロミプレート」)の承認を取得し、4月に発売しました。また、6月にアンチトロンピン (血液凝固阻止成分) 低下を伴う汎発性血管内凝固症候群を対象としたKW-3357の第Ⅲ相臨床試験を開始しました。海外では、韓国において、6月にAMG531 (製品名「Nplate」)の承認を取得しました。さらに、4月から新たに当社の連結子会社となったProStrakan社では、米国において、6月に慢性肛門裂肛痛治療剤「Rectiv™」の承認を取得しました。

抗体の研究開発

自社開発の抗体医薬パイプラインの拡充と並行して、米国現地法人のBioWa, Inc.を通じた「ポテリジェント (POTELLIGENT®)」及び「コンプリジェント (COMPLEGENT®)」技術のグローバルな導出活動を展開し、現在までにライセンス契約を締結した会社は国内外で18社に達するなど、当社技術を応用した抗体医薬の開発最速化に向けた戦略を推進しております。

## バイオケミカル事業

Bio-Chemicals



### 当期の概況

アミノ酸・核酸関連物質を中心とする医薬・工業用原料は、円高による影響を受けておりますが、アジア向けの輸液用アミノ酸や医薬用原料が好調に販売数量を伸ばし、売上高は前年同期を上回りました。

ヘルスケア製品では、当社独自ブランド素材を中心とする通信販売リメイクシリーズの強化に取り組み、順調に伸長させることができましたが、4月に予定していた「キリンの健康プロジェクト」 「キリン プラスアイ」 関連商品のリニューアルが震災の影響により延期されたことなどから、売上高は前年同期を下回りました。

第一ファインケミカル(株)は、医薬品原薬・中間体の



一部製品で販売数量が減少したことに加え販売価格も下落し、売上高が減少しました。

この結果、バイオケミカル事業の売上高は、403億円（前年同期比8.7%減）となり、営業利益は25億円（同35.9%増）となりました。

## 化学品事業

Chemicals



### 当期の概況

本年3月31日に、当社が保有する協和発酵ケミカル(株)の全株式を譲渡しました。これにより、化学品事業を営む連結子会社がなくなったため、化学品セグメントについては、第1四半期（平成23年1月1日から3月31日までの3か月間）のみの連結業績となります。

アジアにおける需要増加や堅調な市況、国内での需要回復等に支えられ、国内外において、販売数量、売上高共に前年第1四半期を上回りました。



分野別には、溶剤、可塑剤原料、機能性製品等全ての分野で前年第1四半期の販売数量、売上高を上回りましたが、とりわけ、冷凍機向け潤滑油原料が順調に推移した機能性製品等が大きく伸長しました。

この結果、化学品事業の売上高は、335億円（前年第1四半期比10.8%増）となり、営業利益は21億円（同216.6%増）となりました。なお、前年同期（平成22年1月1日から6月30日までの6か月間）の化学品事業の売上高は612億円、営業利益は15億円でありました。

## その他事業

Others



### 当期の概況

その他事業の売上高は、53億円（前年同期比4.4%増）となり、営業利益は1億円（同1.7%減）となりました。

医薬品

## 新製剤工場の 建設計画

協和発酵キリン(株)では、生産拠点の再編成を進めており、この度、内服固形製剤工場を宇部工場敷地内に建設し、当社富士工場（所在地：静岡県駿東郡長泉町）の一部機能を移管することいたしました。

新工場は最新製造エンジニアリング技術を導入した自動化設備を有しており、平成23年9月に着工、平成24年12月に竣工し、平成26年の12月頃には稼動を開始する予定です。

なお、新工場建設にかかる投資金額は総額で約40億円を見込んでおります。

新工場建設により、一層高度なGMP（医薬品の製造管理及び品質管理規則）レベルを実現するとともに、自動化による生産効率向上並びにコスト競争力の強化を図ります。



宇部工場

体外診断薬

## CCR4タンパクを検出する 体外診断用医薬品の国内製造販売承認を申請

協和メデックス(株)は、平成23年4月26日に、KW-0761のコンパニオン診断薬として開発中の体外診断用医薬品2品の国内製造販売承認を厚生労働省に申請しました。

本品は、免疫組織化学的手法（IHC）とフローサイトメトリー（FCM）を原理とした診断薬であり、協和発酵キリン(株)が、同日、医薬品製造販売承認申請をしたKW-0761の対象疾病である成人T細胞白血病リンパ腫（ATL）の患者さんの治療の際の診断に使用されることを予定しております。

KW-0761はCCR4を標的として作用しますが、KW-0761を投与する前に、本品を用いることによってATL細胞がCCR4を発現しているか否かを検出することができます。IHCを原理とした診断薬は、ATLの患者さんのリンパ節や皮膚などの組織を検体とした場合に使用し、FCMを原理とした診断薬は、ATLの患者さんの血液を検体とした場合に使用します。治療と診断の組合せは、個別化が進んでいる医療現場において、適切な治療を患者さんにお届けできるものと考えております。

医薬品

## 血小板造血刺激因子製剤/トロンボポエチン受容体作動薬 「ロミプレート®皮下注 250 $\mu$ g調製用」新発売

平成23年4月13日に「ロミプレート®皮下注 250 $\mu$ g調製用」（以下、「ロミプレート®」といいます。）を発売しました。なお「ロミプレート®」は平成22年2月2日に希少疾病用医薬品の指定を受けたバイオ医薬品です。

「ロミプレート®」は、トロンボポエチン受容体に作用する遺伝子組換えタンパク質で、血小板の増殖・分化を促進する「血小板造血刺激因子製剤」です。慢性特発性血小板減少性紫斑病（Chronic Idiopathic Thrombocytopenic Purpura：慢性ITP）を対象とした国内外での臨床試験において、長期間持続した血小板増加効果と忍容性が示されております。平成22年12月現在、欧米をはじめ、28か国で承認されており、Amgen社が「Nplate™」の商品名で販売しております。

慢性ITPでは、通常、血小板破壊を抑制することにより

血小板数の改善を図る治療が行われますが、「ロミプレート®」は血小板産生を促進することにより血小板数の改善を図る薬剤です。今回の発売により、慢性ITP治療における新たな選択肢として「ロミプレート®」が患者さんや医療関係者のみなさまに貢献できると考えております。



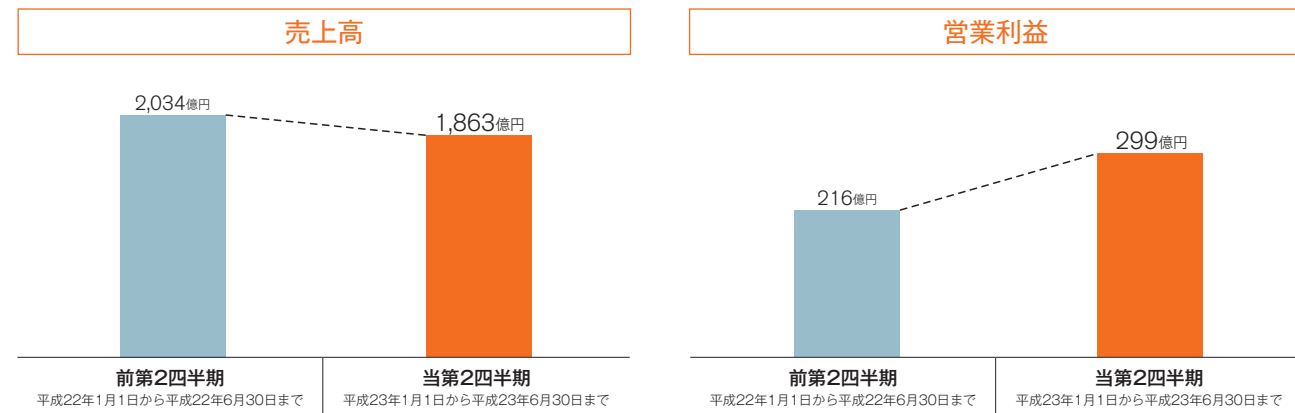
研究開発

## 成人T細胞白血病リンパ腫(ATL)の治療剤KW-0761 国内医薬品製造販売承認を申請

KW-0761は、当社独自の強活性抗体作製技術「ポテリジェント（POTELLIGENT®）」を応用したヒト化モノクローナル抗体です。本剤は、当社が初めて医薬品製造販売承認申請をする抗体で、ポテリジェント抗体としては、世界で初めての医薬品製造販売承認申請になります。KW-0761は、ATL細胞表面に存在するCCR4に結合する抗体です。結合したATL細胞を

ADCC活性により傷害し、抗腫瘍効果を示します。本剤は、再発又は再燃したCCR4陽性のATLを対象とした開発を先行して進めてまいりましたが、国内で実施した臨床試験の結果を踏まえ、製造販売承認申請に至りました。また、厚生労働省よりCCR4陽性のATLを対象疾病とした希少疾病用医薬品の指定を受けております。

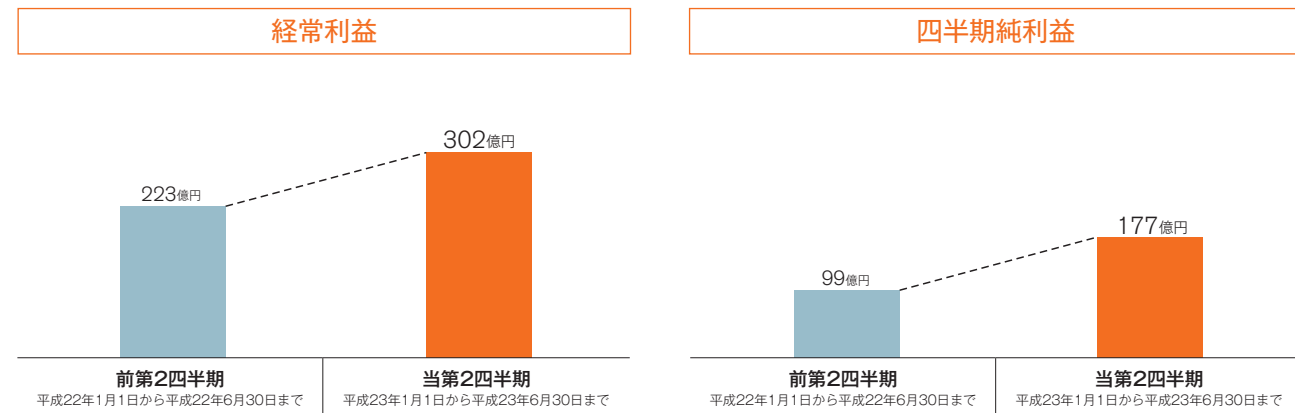
四半期連結損益計算書の概要



POINT 1

売上高／営業利益について

協和発酵ケミカル(株)の全株式を3月に譲渡し、化学品事業を連結除外としたことから、売上高は減収となりましたが、医薬事業が好調に推移したことにより、**営業利益は前年同期比38.0%増**となりました。



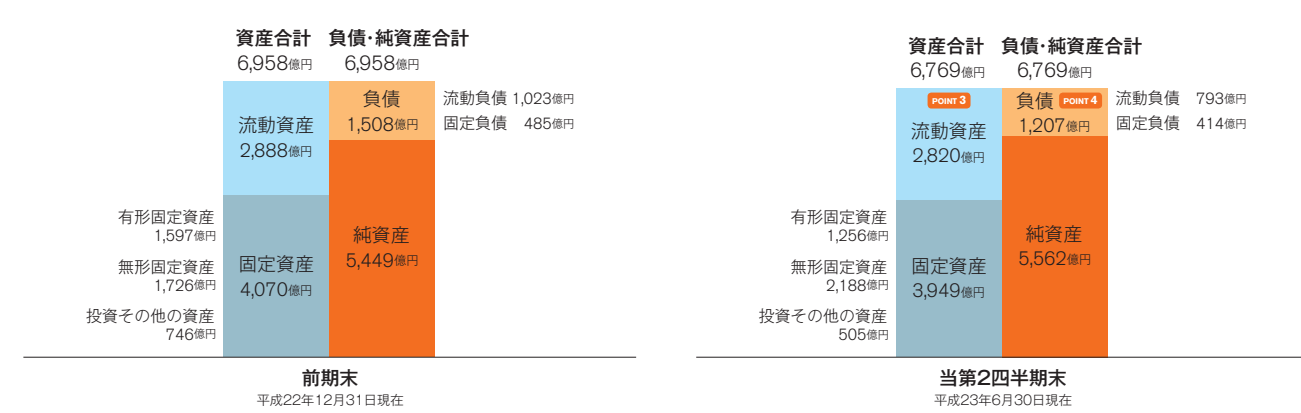
POINT 2

経常利益／四半期純利益について

経常利益は、**前年同期比35.3%増**となりました。純利益は、キリン協和フーズ株式や協和発酵ケミカル株式の譲渡益などがあり、**前年同期比78.9%増**と経常利益を上回る伸びとなりました。

※ProStrakan社の業績は、当第2四半期には含まれておりません。

四半期連結貸借対照表の概要



POINT 3

資産について

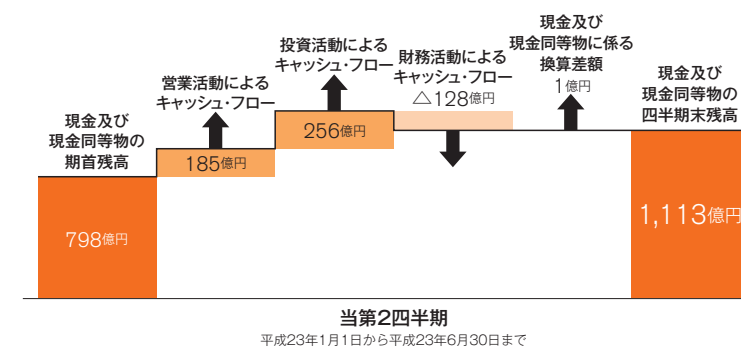
ProStrakan社の新規連結に伴いのれん及び販売権の計上を行った一方、化学品事業の連結除外に伴う流動資産、固定資産の減少がありましたので、資産合計では188億円減少し6,769億円となりました。

POINT 4

負債・純資産について

負債は、化学品事業の連結除外に伴い流動負債が大きく減少したこと等から300億円減少しました。純資産は、四半期純利益の計上等により112億円増加しました。この結果、**自己資本比率は、前期末に比べ3.8ポイント上昇**し、82.0%となりました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要



POINT 5

四半期連結キャッシュ・フローについて

**営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の計上332億円等により、185億円の収入**となりました。  
**投資活動によるキャッシュ・フローは、ProStrakan社株式の取得による支出**がありましたが、キリン協和フーズ株式や協和発酵ケミカル株式の売却による収入があったため、**256億円の収入**となりました。  
**財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払い、長期借入金の返済等により、128億円の支出**となりました。

▶ 詳細な財務情報は、当社ホームページ[IR情報のライブラリ]をご覧ください。 <http://www.kyowa-kirin.co.jp/ir/library/index.html>

会社概要

|      |             |
|------|-------------|
| 商号   | 協和発酵キリン株式会社 |
| 創立   | 昭和24年7月1日   |
| 資本金  | 267億4,500万円 |
| 従業員数 | 7,305名      |

役員

|             |        |
|-------------|--------|
| 代表取締役社長     | 松田 譲   |
| 代表取締役社長執行役員 | 山角 健   |
| 取締役専務執行役員   | 花井 雄   |
| 取締役常務執行役員   | 立花 義   |
| 取締役常務執行役員   | 河合 弘   |
| 取締役常務執行役員   | 常包 芳   |
| 取締役(社外)     | 西北 村 善 |
| 取締役(社外)     | 北山 元 章 |
| 取締役(社外)     | 磯崎 功 典 |
| 常勤監査役       | 谷口 明   |
| 常勤監査役       | 左藤 友 二 |
| 常勤監査役       | 永井 浩   |
| 常勤監査役       | 鈴木 弘   |
| 監査役         | 高橋 幸   |

執行役員

|        |        |
|--------|--------|
| 常務執行役員 | 西野 文   |
| 執行役員   | 唐澤 博   |
| 執行役員   | 諸富 啓   |
| 執行役員   | 三山 文   |
| 執行役員   | 佐山 俊   |
| 執行役員   | 大川 嶋 暢 |
| 執行役員   | 杉野 悦   |
| 執行役員   | 井谷 敏   |
| 執行役員   | 秋上 雅   |
| 執行役員   | 岡永 士   |
| 執行役員   | 安達 和   |
| 執行役員   | 達楽 研   |

株式の状況

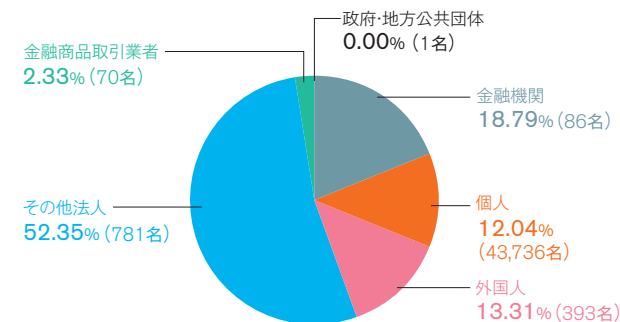
|          |              |
|----------|--------------|
| 発行可能株式総数 | 987,900,000株 |
| 発行済株式の総数 | 576,483,555株 |
| 株主数      | 45,068名      |

大株主

| 株主名  | 持株数(千株) | 出資比率(%) |
|--|---------|---------|
| キリンホールディングス株式会社                                    | 288,819 | 50.68   |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)                            | 22,616  | 3.96    |
| 日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)                           | 19,096  | 3.35    |
| 農林中央金庫   | 10,706  | 1.87    |
| みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口<br>再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社  | 4,781   | 0.83    |
| 野村信託銀行株式会社(投信口)                                    | 4,649   | 0.81    |
| ドイツ証券株式会社  | 4,351   | 0.76    |
| ノーザン トラスト カンパニー(エイブイエフシー)<br>サブ アカウント アメリカン クライアント | 3,917   | 0.68    |
| ジュニパー  | 3,787   | 0.66    |
| 日本興亜損害保険株式会社                                       | 3,246   | 0.56    |

(注) 1. 出資比率は自己株式(6,664,232株)を控除して計算しております。  
2. みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社の持株数4,781千株は、株式会社みずほ銀行が委託した退職給付信託の信託財産であり、その議決権行使の指図権は株式会社みずほ銀行が留保しております。

所有者別株式分布状況



(注) 株式分布比率は自己株式(6,664,232株)を控除して計算しております。

事業所

|      |   |
|------|---|
| 本社   | 東京都千代田区大手町一丁目6番1号   |
| 営業拠点 | 札幌支店、東北支店、東京支店、千葉埼玉支店、北関東支店、甲信越支店、横浜支店、名古屋支店、大阪支店、京滋北陸支店、中国支店、四国支店、九州支店 ※このほか、営業所が57カ所あります。 |
| 生産拠点 | 高崎工場、富士工場、四日市工場、堺工場、宇部工場  |
| 研究拠点 | バイオ生産技術研究所、東京リサーチパーク、富士リサーチパーク、製剤研究所、合成技術研究所  |

グループ企業

主要な国内グループ会社

- 協和発酵バイオ株式会社 (東京都千代田区)
- 協和メデックス株式会社 (東京都中央区)
- 第一ファインケミカル株式会社 (富山県高岡市)
- 株式会社協和ウェルネス (東京都中央区)
- 千代田開発株式会社 (東京都中央区)

海外グループ企業

- A ProStrakan Group plc
- B Kyowa Hakko Europe GmbH
- C 麒麟鯤鵬 (中国) 生物薬業有限公司
- D 上海協和アミノ酸有限公司
- E 第一・キリン薬品株式会社
- F 台湾協和発酵麒麟股份有限公司
- G Kyowa Hakko Kirin California, Inc.
- H BioKyowa Inc.
- I Kyowa Hakko Kirin America, Inc.
- J BioWa, Inc.
- K Kyowa Hakko U.S.A., Inc.